

新加坡一代誌卷一

第一冊



~ 13
4039
4



81
8601

釋迦御一代圖會卷之四

釋迦御一代圖會卷之四

目錄

舍利弗目蓮歸釋尊法門
 聽世尊法助出罪囚獄中圖
 安陸說舍利弗佛偈圖
 世尊謁淨飯王若宮認如來
 世尊赴夕陽山圖
 阿難迦難優波離耶愉陀羅女得道
 世尊於忉利天謁二世母君
 提婆冠世尊 旃卒都波女功德

天竺圖會卷之四

昭和42年12月12日
和田大作氏贈

世尊大神通懲魔軍圖
 提婆勸謀叛斛飯王
 世尊使難陀羅睺羅見三冥途
 世尊示二太子三冥途圖 其二
 世尊昇殿賜勅衣
 離婆多依無失罪囚獄中
 離婆多遭呵責圖
 難陀王即位并淨飯王崩御

釋迦御一代圖會卷之四

舍利弗目連飯世尊法門

浪華 好谷堂野亭考選

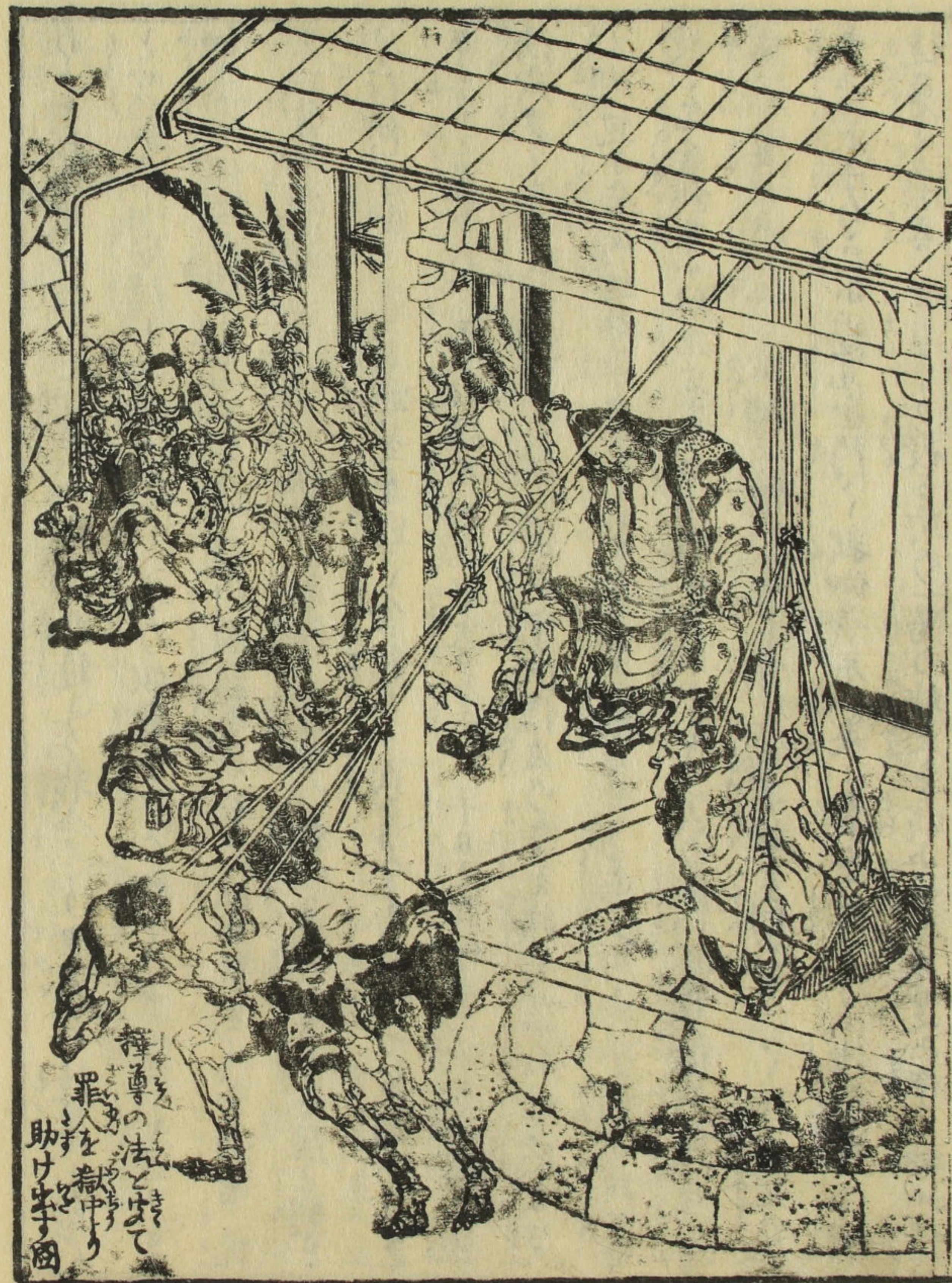
摩竭國の三加葉世尊の徒弟となりて僧となりて。六偈國の主頻婆婁王より
 大系發た彼三加葉ハ皆法術あり就中大加葉ハ神通廣大あり朕が師
 なる悉く釈迦の徒弟となりて淨飯皇子乃德三加葉ハ上にお出され然も
 其說法をばくと高議ある茲も迦陵といふ長者あり富國無比者なり天性大
 善報り人より財散貧者成賑をばと多し此頃世尊六偈國にお来り法を説
 ふまに稽舎なれをばと迦陵長者大檀那となり我が竹園にお稽舎を造営して
 是を釈尊にお献る如來感納りば彼五百の徒弟も稽舎にお稽舎を造営して
 我迦陵竹園稽舎と号國人乃為法成説り頻婆婁王乃夫人并諸大臣と
 俱にお迦陵竹園にお結其說法を聽受あり歡喜踊躍りば數の絶物と献せ
 らる王宮にお還り宰獻を用た罪囚を宥り大赦を行はれ人民も世尊の

法成仰光尊有り。時小釋尊の法弟安陸汝門鉢を持し市中に入り毎を乞ふ。一入の婆羅門小姓遭ぬ此人名を舍利弗と呼び王舎城の産す。其動靜の俱小此頃之偈國未り任を兩人も聰明俊才なり。廣く書翰を通し神通亦廣大なり。能く者稀なり。然るに舍利弗今安陸乃托鉢して乞ふ。其動靜の尋常なるを感し進を問ひ曰。汝が為昧新小出家す者。不知汝が師。如何かる人。名何と呼。如何なる法を教戒。安陸曰。我が師ハ佛陀國の皇子。曾て喜提心を獲。檀特雪山小登り。不惜身命。行をなす。十二年。遂小無上真正の音成悟り。名を釈伽牟尼如来と稱。一切種智を得。神通窮なり。我若年ふ。字を日久と云ふ。如来乃妙法の高。一なり。既事不能。唯一偈をまり。汝が為云々と云ふ。其偈曰。

一劫緒法水 因縁生無主 若能解此者 則得真実道

舍利弗此偈を聞き。神心朗らか。心小思ひ。我が今日。学す所。真の道。

あをを釈伽佛の教を。生死成離る。大道なり。我今より世尊の徒弟とせん。と心小決し。安陸小向て曰。幼く如来乃妙教をよ。胸中の雲霧を拂り。如来今何國小住。安陸曰。竹園精舎小在。法を説む。舍利弗悦。曰。法を我弟子。從て。精舎小参詣し。如来乃法をせん。安陸と別。任所へを暇り。目連是を迎へ。舍利弗。面をみる。小怡悦。乃色頗不見。平素と異かれ。問て曰。師。凡。面。色。歡喜を。含。平。日。と。相。似。必。且。露。の。妙。法。成。歩。か。らん。我。脚。辺。と。同。く。道。を。学。び。信。友。の。交。を。結。ぶ。若。我。妙。法。を。受。む。脚。辺。小。告。脚。辺。妙。法。を。受。む。我。小。告。よ。と。約。定。せ。り。若。中。所。あ。ら。む。我。小。跪。坐。し。と。乞。舎。利。弗。が。曰。推。察。乃。如。く。我。今。日。市。中。に。入。り。汝。門。小。遭。彼。威。儀。座。上。常。人。と。異。かれ。必。且。名。師。の。教。を。受。む。か。らん。其。故。を。問。果。一。淨。飯。王。の。子。悉。達。太。子。今。已。正。覺。を。得。釈。伽。牟。尼。如。来。と。名。を。稱。せ。し。る。汝。即。ち。其。徒。弟。と。り。と。答。へ。世。尊。より。授。る。所。の。一。偈。の。妙。文。を。我。小。示。せ。り。是。小。依。り。神。心。清。



かろ妻を覺(後弟と俱不迦陵竹園不到り。釈尊の說法を以て法門に皈せんこと
成思(り。御辺に俱不竹園に結(むをよと向目連大(悦び我悉達太子の大
名成(度拜謁せんこと成欲(せんも未(望成遂(む己(學道成就(して程遠
く竹園精舎に法成(説(六天縁(の熟(する所(なり我(御辺(に俱不(世尊(の
法弟(と成(るなりといふを舍利弗大(悦び(兩人(奇(其準備(成(を(り(ふ(る我
釈尊(六天(眼通(成(以(て早く是(成(知(む(左右(の羅漢(不(結(て曰(十日(乃(後(必(て
二人(の婆羅門(徒弟(を引(後(て予(此(精舎(に結(す。法門(に皈(せん。一人(を名(を舎
利弗(と呼(び智惠(弟(一(乃(八(なり今(一人(を名(を目連(と呼(び神通(弟(一(乃(八(なり
俱(不(予(道(成(推(弘(る上(弟(なりと仰(るを如葉(亦(曰(如来(何(を以(て知(りや釈尊(曰
予(真正(の道(を悟(り六(神通(を得(せん。三世(を觀(通(し物(として知(る者(を以(て仰(す
如葉(亦(感(歎(り(を(ては(是(を信(ず(と(る所(安(陸(回(り来(り。弟子(市(中(小(て一人(の
婆羅門(不(禮(一(偈(を授(け(其(始(末(を結(り(れ(是(を(堅(と(舍利弗(方(るを(と(く猶(と

其(法(を衆(生(を教化(し(其所(小(果(と(十日(余(成(過(す舍利弗(目連(二百(人の徒(弟(を
引(連(す竹園(に来(り恭敬(礼(拜(し各(名(を通(す。如葉(乃(說法(を聽(す。隨(喜(の泪
成(流(し法弟(と(んことを望(ふ。緒(羅漢(始(て如来(の六(通(を得(せん。和(り(讚(歎(し
て不(止(世(尊(舍利弗(目連(亦(を法(論(を博(し(辯(を絶(す。舍利弗(目連(亦(は徒(弟(亦(は
歡(喜(踊(躍(し薙(髮(して佛(弟(となり阿(羅漢(果(を得(す。斯(く世(尊(竹園(の說法
畢(舎衛(國(物(耶(丘(國(婆(羅(婆(國(亦(を周(行(し(說法(を以(て往(す。如(比(羅(婆(國(に大(伽
陀(國(の境(に波(曼(拏(耶(とい(市(小(出(む。舍利弗(を召(て曰(予(生(老(病(死(を厭(む故(小
父母(を捨(て我(心(修行(せ(と(多(今(己(不(學(道(成就(し(父母(の國(小(道(く来(る。理(見(と(ん有(る
を(て二(你(伽(毘(羅(維(城(到(り。予(不(孝(の罪(を謝(し(龍(顏(を拜(せ(入(妻(を願(せ(れ(命
一(舍利弗(法(命(を領(掌(し(神通(を弄(す。一(刹(那(が回(り(飛行(して大(伽(陀(國(の都(小
到(り。大(光(明(を放(ち(れ(人民(大(小(孩(兒(斯(と王(城(辨(淨(飯(王(其(故(を知(る。宮
人(を半(く其(何(者(を成(乳(を(ら(此時(舍利弗(王(宮(の門(外(に来(り。又(手(て(王(宮(入

同く曰大徳、何人か何の爲に此所へ来りや、舍利弗が曰、貧道、釈迦牟尼如来の徒弟、
 舍利弗なり。如来は淨飯大王の皇子、悉達太子なり。王宮を出て、檀特雪山の法堂
 小難行苦行して、真正の道を需むこと十二年、今已正覺を得、山を出て一切衆生を化
 度し、此國近く来り、我依り、弟子戒ひ、不孝の罪を謝せしむ。願くは此旨、大王の傳
 奏し、或は官人悉達、の二字戒せ、且孩れ、且悦び、舍利弗を引、朝廷に到り、右の
 旨を傳奏、官人就く、奏し、我淨飯王、三十二年の桃の花咲海中、優曇華の用たり、
 心地、我以朕太子、小別り、已に現世に、相見し、能く、十余年、同是之の、教れ、勝
 を断ち、我、小豈、さう、人再び太子戒、ん、は、是、八夢、現う、とく、歡喜、踊躍、小勝、あ、を
 舍利弗殿上、小緒、て、礼拜し、我以尊者の厚情、依り、太子の消息、成、心、勝、を
 即、刺、迎、緒、の、車、駕、を、進、と、下、不知、如来、今、何、里、在、や、舍利弗が、曰、彼、優、徳、那、在、て、
 專、く、貧、道、を、面、報、を、待、ひ、り、淨、飯、王、曰、然、を、尊者、と、俱、に、結、招、の、官、人、を、進、と、下、夕、陽、
 山、青、瓏、殿、に、如来、の、実、母、故、大、耶、夫人、の、靈、を、鎮、祭、す、所、に、先、彼、所、に、法、駕、を、結、し、
 面、錫、と、下、と、烏、院、夷、小、五、百、人、乃、官、人、を、副、車、駕、を、齎、し、舍利弗、と、俱、に、波、優、徳、那、の
 市、に、赴、り、其、后、月、景、城、の、脚、使、を、多、く、と、太子、学、道、成、就、し、波、優、徳、那、を、表、臨、
 わ、使、僧、を、以、り、對、面、を、乞、り、小、り、結、招、の、為、車、駕、を、進、せ、り、先、小、太子、小、仕、下、車、
 畫、平、夕、陽、山、乃、青、瓏、殿、に、到、り、如来、の、法、駕、を、迎、せ、り、と、命、せ、り、佛、曇、彌、夫人、是、を
 実、母、の、唯、是、盲、龜、乃、得、木、小、遭、り、女、余、り、乃、更、小、婦、一、泪、小、を、か、小、頓、小、新、宮、懸、野、
 瞿、陀、弥、乃、り、太、子、宮、中、小、在、せ、り、時、勤、仕、す、女、官、勅、命、成、傳、久、々、中、く、太、子、小、見、せ、り、
 事、を、れ、身、を、清、け、り、と、參、り、と、面、々、小、嚴、れ、新、衣、一、重、け、成、贈、ら、る、是、小、依、り、女、
 官、亦、悦、び、勇、ま、す、と、以、者、を、其、弟、小、独、痛、み、た、耶、踰、陀、羅、女、乃、由、上、方、り、前、小、鏡、
 一、如、く、太、子、出、塵、乃、後、三、年、過、り、若、官、を、産、む、小、り、種、々、乃、上、女、鏡、を、入、り、佛、曇、彌、
 夫人、小、疑、れ、れ、小、世、成、夏、の、小、敷、れ、り、若、君、と、俱、小、垂、菴、の、の、月、日、成、送、む、
 花、小、異、り、日、影、乃、花、小、異、り、を、雅、有、く、事、務、来、る、人、由、り、て、今、般、如、来、乃、夕、陽、
 山、の、在、り、由、告、る、者、を、れ、り、由、知、り、お、り、多、小、此、宮、小、仕、る、妹、女、一、人、お、り、
 山、の、在、り、由、告、る、者、を、れ、り、由、知、り、お、り、多、小、此、宮、小、仕、る、妹、女、一、人、お、り、

面錫と下と烏院夷小五百人乃官人を副車駕を齎し舍利弗と俱に波優徳那の
 市に赴り其後月景城の脚使を多くと太子学道成就し波優徳那を表臨
 わ使僧を以り對面を乞り小り結招の爲車駕を進せり先小太子小仕下車
 畫平夕陽山乃青瓏殿に到り如来の法駕を迎せりと命せり佛曇彌夫人是を
 実母の唯是盲龜乃得木小遭り女余り乃更小婦一泪小をか小頓小新宮懸野
 瞿陀弥乃り太子宫中小在せり時勤仕す女官勅命成傳久々中く太子小見せり
 事をれ身を清けりと參りと面々小嚴れ新衣一重け成贈らる是小依り女
 官亦悦び勇ますと以者を其弟小独痛みた耶踰陀羅女乃由上方り前小鏡
 一如く太子出塵乃後三年過り若官を産む小り種々乃上女鏡を入り佛曇彌
 夫人小疑れれ小世成夏の敷れり若君と俱小垂菴のの月日成送む
 花小異り日影乃花小異りを雅有く事務来る人由りて今般如来乃夕陽
 山の在り由告る者をれり由知りおり多小此宮小仕る妹女一人おり

忝り太子御望を遂むの尊れ如来と仰ぐれむひく近なる夕陽山へ来らせし如來太子
 官より官中乃女房連(新なる衣を賜り各青龍殿へ如来乃御迎へて奉る)一
 度六悦び一度八怒とわひける御更あはれ此官も疾告るをせしむるに其更あはれ若
 官産れし言ひより純言をも分る上も猶疑ひあふることと世も持しむ怒
 思召御衣の袖を絞る并小泣ひるるが年頃待たしむり如来此時見しむりて若
 官乃御更申上じむ何時身乃濡衣を干されと推し后官乃御并へ使をま
 風小はるむしむ太子学道成就しむ音璫殿へ光臨させしむり鹿野瞿陀彌
 乃二万より太子小仕しむり人々御迎へ奉りし可憐願く八妻も御免をまかりて
 心を任せしむりむと回答りし然も賦衣の汝汰かたりしを最面伏けし
 如来小見しむり憑小若君を伴ひ令入引後夕陽山を赴れむひく

浄飯王對顔執尊者宮知如来

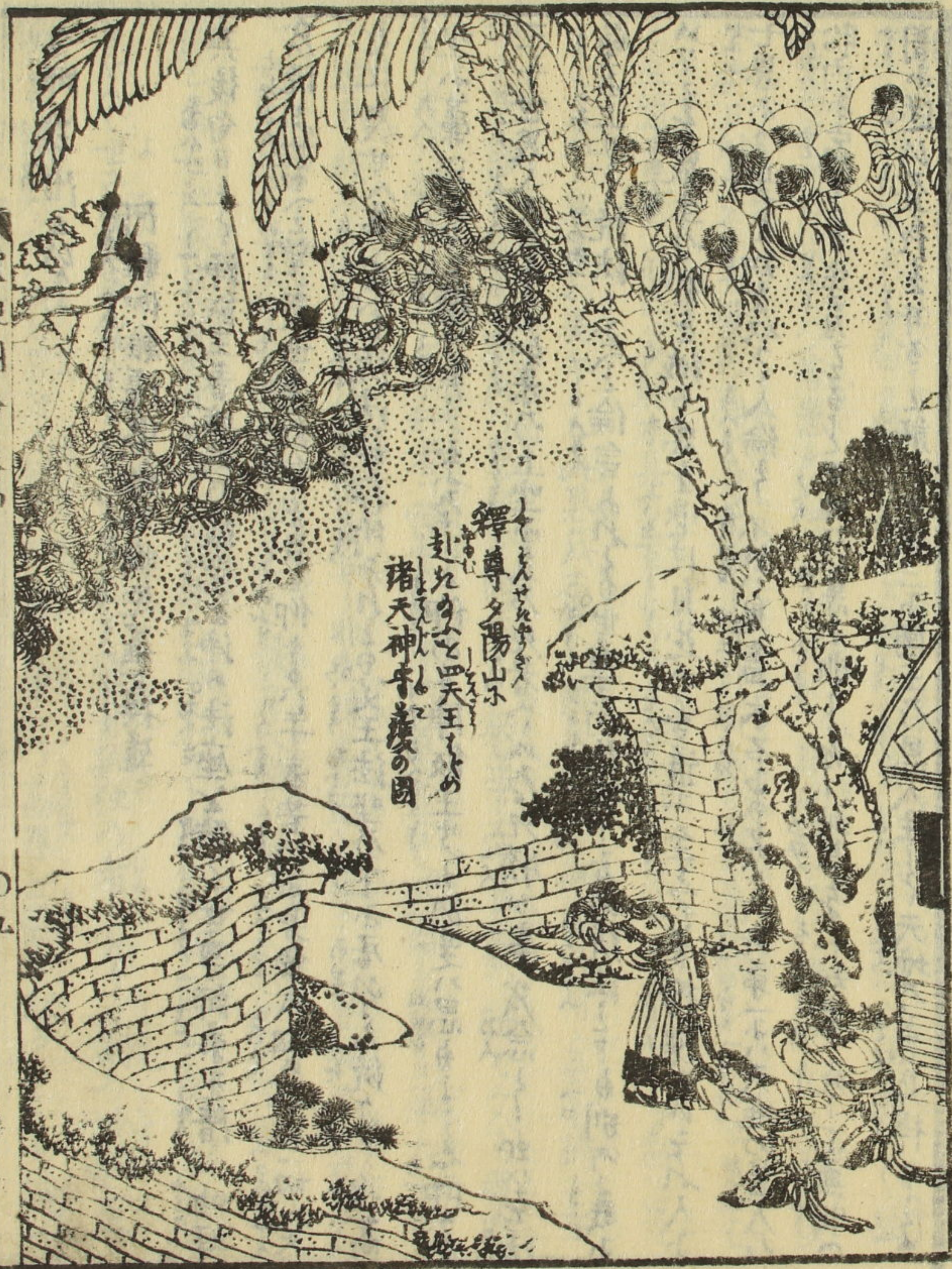
佛弟舍利弗ハ勅使烏陀夷と俱ハ波優祇耶(圓り)王命ハ報トれを如来歡
 喜しむひ烏陀夷を迎へ召し別來の素情をの長途乃疲勞を休きしむ
 ひろ小を烏陀夷も恭敬礼拜し世尊の法顔を見しむりも美玉の如くな
 貴層も十二年の難行ハ瘦黒しむ昔乃面影ハ在されも端嚴の法相尋
 常なりと一千五百の阿羅漢乃中ハ在と休萬里乃中ハ名月乃出し如くすて
 自然頭の依る心地。隨喜の泪小衿を沾りあが。学道成就を祝しむり車
 次曳半乗しむり人更を乞世尊是を得て仰るるハ予が身性日と等しむり
 豈車駕小乗しむり難しむり退けしむり諸目連加葉們を顧しむり白す今
 般故國小到るハ思愛の絆小棄るむらと。下化衆生隨緣真如乃為かれ女時
 師弟の礼を除けしむり成り難くす。神通を乞紫磨金光を傳しむり
 猪羅漢しむり難行の姿と現し車中も乗しむり草鞋を踏しむり歩しむり烏陀

夷之已事。成得。と官人を從へ。先成拂ふ。其次ハ三加葉先達。と五百の僧侶。左の路を往。舍利弗。目連。富樓那。先達。と五百の僧侶。右の路を往。世尊。ハ五百の僧侶を從へ。中路を往。ハ知陀國の人民。遂に此處を。傳へ。如來。乃光臨。ハ拜。と人。蟻の群。如。地。聚。り。波。優。祇。耶。より。多。陽。山。に。數。百。里。の。間。路。上。の。兩。邊。に。坐。成。連。錘。を。多。くの。地。成。も。残。を。今。や。く。と。待。所。に。前。隨。の。官。人。鉦。鼓。管。絃。を。奏。し。と。通。行。し。其。次。ハ。千。五。百。の。阿。羅。漢。三。行。小。列。を。ま。り。通。る。然。れ。ど。中。是。と。世。尊。と。人。も。も。る。を。死。あ。り。由。有。ま。れ。ど。其。よ。是。と。圓。心。を。り。や。く。衆。人。大。小。望。成。失。ひ。を。唯。何。と。か。し。尊。覺。皆。偈。仰。の。首。成。を。依。小。を。斯。く。日。成。重。て。世。尊。ハ。多。陽。山。青。瑤。殿。に。坐。り。小。殿。上。殿。下。の。莊。嚴。善。不。美。不。加。羅。栴。檀。の。香。散。郁。と。く。名。香。世。界。不。異。か。く。と。殿。上。の。左。ハ。淨。飯。王。乃。玉。坐。成。毀。け。其。次。ハ。橋。曇。跡。夫。人。の。坐。其。上。り。新。宮。鹿。野。瞿。陀。跡。と。多。許。多。の。女。官。居。を。れ。耶。踰。陀。羅。女。中。若。官。成。結。了。其。中。ハ。居。お。り。其。他。三。大。臣。月。卿。雲。客。百。司。百。官。今。日。を。曠。と。衣。

冠を飾り。魏々堂々と。衆烈と。右ハ。秋。尊。の。法。座。及。ハ。衆。羅。漢。の。席。成。毀。れ。し。時。小。世。尊。目。連。舍利。弗。三。加。葉。以。下。を。推。り。昇。殿。し。法。坐。お。着。お。し。淨。飯。王。乃。夫。人。新。宮。月。卿。雲。客。を。如。來。を。拜。し。と。同。心。を。し。ま。さ。く。皆。一。樣。の。藤。の。太。布。を。墨。小。條。を。衣。成。着。し。木。葉。を。糸。と。編。み。袈。裟。を。し。目。黒。と。瘦。疲。れ。る。沙。門。の。し。を。れ。何。成。を。れ。も。か。が。く。衆。人。憫。累。を。終。す。維。入。幻。を。護。と。者。が。茲。ハ。耶。輸。陀。羅。女。六。若。君。と。俱。お。女。官。乃。中。小。居。お。り。身。の。法。衣。を。脱。ハ。此。時。か。り。と。潛。小。若。君。の。耳。根。小。口。乃。廿。年。月。兩。小。は。け。風。は。け。惡。暴。お。り。又。君。ハ。彼。羅。漢。達。乃。中。小。在。せ。り。法。身。是。と。又。君。と。思。ひ。方。小。是。進。せ。ま。く。遺。物。乃。脚。片。袖。を。半。小。渡。し。此。時。若。官。ハ。才。小。が。り。お。い。ま。り。母。君。乃。仰。を。得。く。件。乃。片。袖。を。把。持。乃。金。を。撥。を。り。け。ま。く。と。出。ま。り。王。乃。進。臣。是。成。引。面。是。ハ。玉。坐。乃。前。か。も。何。者。乃。兒。を。れ。を。り。出。る。と。疾。退。を。ま。す。と。叱。り。々。小。若。君。女。乃。も。り。い。ま。お。を。丸。ハ。如。來。小。物。獻。る。か。り。依。が。知。る。を。我。お。わ。ら。む。と。袖。振。ら。む。と。徐。々。と。安。と。り。お。弟。三。乃。座。か。も。羅。漢。乃。前。小。跪。お。慎。ハ。片。袖。を。捧。り。

其時彼羅漢手執伸して片袖を採示と笑ふ。不変真如妙覺無為衆生智願皆
 田滿と唱ふ心忽ち阿羅漢の形を博く三十二相八十種好光明無碍大覺知現の
 法相を現しおの御身より大光明を放白毫より金光耀く殿中の七宝錦繡を映し
 いろ色彩を増ふる浄飯王嬌曇彌夫人其餘今なき疑ひ惑人々堂上堂下一弁
 小此奇特をんくあつと感嘆し思ふと首を低く礼拜しんん。一千五百乃阿羅漢も
 座具をのぞく恭敬礼拜し。本旨本佛南无釈迦牟尼如来と唱ふる是れんん耶
 輪陀羅女の嬉したるを。我々を列と出はく佛足を拜し世尊も脚又浄飯
 王脚母嬌曇彌夫人を敬礼しおの不孝乃見大恩無比の父母乃慈心小恃り宮中と潜
 出出家学道せし重罪謝しんん。一切衆生の煩惱を救ひ極樂浄土
 へ引接せんん。想しんん。此推れ者耶輪陀羅女が宮中を出し後三
 年が経つ所生れし諸人々を其期小後く妊娠せし成り疑惑を生ず。是非の議論
 有るも耶輪陀羅女貞操無双とて敢て行成織と者あつとて別離の期

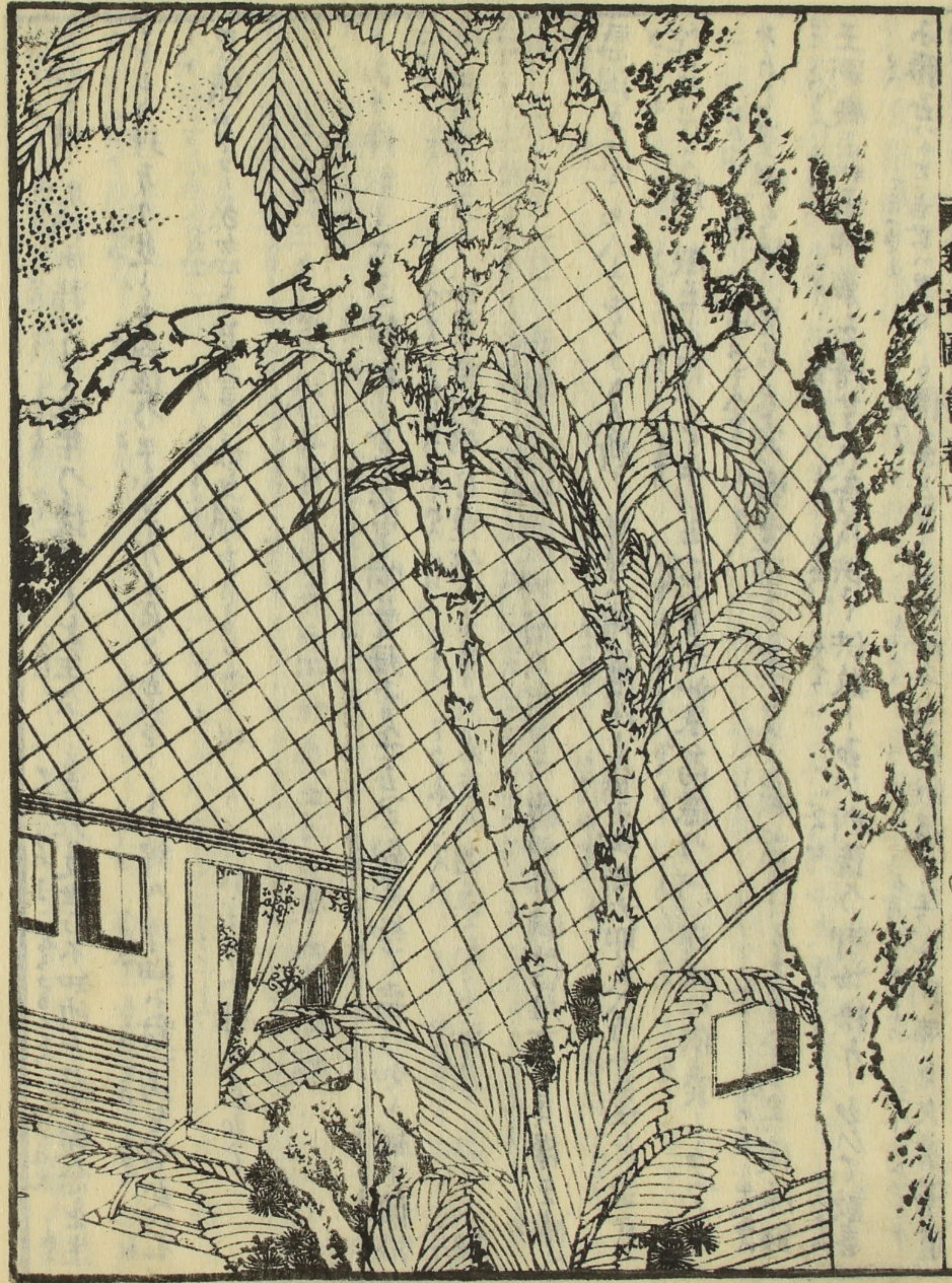
小臨を彼ら胎内小指きて三年の後男子を生ずると言はれ世の不知所を疑念を生
 るも由理あり然れも因位の子が子か成るんん。錦乃片袖小對一偈を唱ふん
 思議ありんん。心ち世五言の妙文織を有り現く。浄飯王手小採りんん。
 我去後三年過可得善男子即是我因位為正汝生来大善知識
 とあり浄飯王大し讚歎しおの右宮嬌曇彌おの世念初て霜乃如く解て後悔
 慚愧し勝むを三加葉舍利弗目連以下も尊れ若宮乃因位をて世尊とて敬
 礼しんん。堂上堂下無數の人如来の神通力若宮乃聰明耶輪陀羅女の貞操を賞
 感涙を流さぬ人々をりり斯く世尊ハ緒羅漢と俱し御母ナ耶夫人乃聖位を祭ら
 陀羅漢を編一般若を行し吊ひし生身乃如来高德乃阿羅漢の供養しんん。
 されんん。聖魂も嬉し思召天上乃樂竟(坐)下あらし最の申しんん。其後浄飯
 王別殿小如来師弟を結せん奇成供養しんん。別後乃御物結りおのて歡喜
 小勝むを若君ハ其日より佛弟とす。おの法名を羅睺羅と号。舍利弗を女書筆道



釋尊夕陽山
赴九十九天王の
諸天神宇の園

釈迦圖會卷四

〇九



釈迦圖會卷四

〇九

乃師おを附むひなる

阿難伽難優婆離耶輪陀羅女得道

其後旬日主浄飯王昔境殿乃後堂を浄め法座を儲く世尊師弟を信じ
我統びせあへ望む世尊勅命を畏し仰き八年未苦行の身命を扱ひ一切人天
を化度せん為におい統法の望む所なり又王法坐乃下居ひて統びて唯高
坐小簾乃垂く聽きなりと仰ある浄飯王は是ハ思ひて是ハ思ひて仰き
三千世界入天乃中お如来乃上坐お坐る者ハハ朕が事成念とて法
座お上りて統法一と倫言あれども世尊尚推返しお統法とて別乃義お
いひて衆生乃邪を緘め悪を退け自出の善道に至らむる階梯おいそれ人ハ
七思あり是を以て人倫と不知鬼畜木石お劣りハ先弟ハ天地の思入乃
胎内お宿るより生着るると天地乃惠お承し此思を不知者死て無明の
闇お迷ひ昼夜を并りて能く第二國王乃思入生く天地乃惠成得るとも

國王聖明をくらんて又母由親と能く其思成知され地獄小墮落く猛

大乃為小身然燒く乃苦患あり第三小又母乃思母胎十月乃深思く出至後

又ハ終日外小出く世業の為小身を勞母ハ終夜養育の為小眠此思成不知と

畜生道小生以得或ハ五鉢不具乃者となる第四小師乃思入生長とて教導

く人か人を鬼畜小異なり此思成不知を後身愚痴無智の者と生く終小惡

趣小墮落を第五小明友乃思假令師ありて教導も良友の補け人を幾達

とる妻成得と此思を不知者慳貪無慚の者と生く天罰を蒙る第六小と

從頌眷族乃思良友ありて過を正水を練善道小導とて眷族乃助力あり

て錢財錫く長久を不得此思を不知を後身人非人と有りて終小識鬼道小墮

落と第七小衆生の思身小良友眷族乃助力ありとて衆生其能を愛才と貴

せんと世小交る事能く此思を不知を後身孤獨の者と有りて刀劍乃地獄落

慎でも慎むるハ此七思あり就中予第二第三乃高思を蒙りたると須弥山

を亦兩尊と位し阿難其志の切なる感し扶起し慰て曰深く歎れぬ其妻が我如
 来小錫の烟の願ひ御望を達せし進を盡しとて練の綸の宮中へ回りし諸世尊小錫
 向く曰曾て如来承る過去の諸佛皆比丘比丘優婆塞優婆塞美の四部の衆を具
 せしと統むる此更美かや各や世尊曰素り過去の諸佛小四部の衆あり阿難曰出
 何故耶輸陀羅羅女出家得道成終を公するや世尊曰女人の物に感し安し亦爰し
 安し此故尔怪忽小終を彼も八敬を守り大精進をなす爰せんとて得道を終
 ぞ阿難悦び退り耶輸陀羅羅女を招り世尊乃仰を告るれど妃ハ歡喜小不勝天地小
 誓ひ八敬を守り大精進と下と中と上とあり阿難其旨成世尊小中佛勅を受て戒師
 となり遂に妃の飾を落し比丘尼となり耶輸陀羅羅女此時三十七歳盛六女過ぬれども尚
 散残る花乃面白端嚴なる小丈夫余る緑の黒髪を薙る羅綾乃袂を墨塗る袖
 小久ぬ六殊勝の亦難有るも幾心なり世尊是を覽し善哉比丘尼と賞し小ひ
 脚名を妙惠と号し此時年来妃小奉公せし姪女五十余人小悉く剃髪し女僧と

かりぬ斯く耶輸陀羅羅女得道乃夏月景城へ坐えられ憍曇彌夫人怒り亦殊勝小
 思召夕陽山の林麓小庵室成造営し進せらる小妙惠居歎不堪深く思成謝
 庵室小移任し菩提惠中と四字成題し額をうち三摩耶行入行ひとて
 却座なるは女人の出家し佛弟子と名する妻ハ妙惠居り権責なり是を
 阿難尊者の法情小所かし未代も女僧と名する者ハ如来乃却度ハハ更かり
 阿難尊者を供養し法思を謝しとてんが
 釋尊於初利天謁二世母君
 一時世尊諸羅漢小仰多し予往年檀特の難行終し時法の師阿羅々仙曰你的信力
 小依し実母耶夫人上天小生受切利天王乃后妃小具きりと予其時ハ六通を得
 され信せし今已小三明六通を得る三千世果を觀通とて小阿羅々仙乃言果
 虚かると故小予切利天小昇り帝欽天小說法せんと思つり三加葉舍利弗月蓮
 阿難伽難富樓那優婆離等ハ予小後昇天小仰を羅漢連大の歡喜

其日遅しと待れども世尊四月一日より七日間修法あり満ちて日天門に向ひ衆生
 不生現神力不變真如妙覺圓滿今現在當來同示摩訶衍乘唱入迦薩如意
 を以て虚空を摩訶玉を奇なるか忽ち金色の雲より降り雲中八葉の蓮
 華座轉りあり五十二菩薩來降あり如來師弟を引接し蓮華坐し終り切利
 天の昇玉ひる絨如來乃神通力不思議とすも跡方なり斯く世尊ハ諸羅漢と
 とも切利天到り空室乃内院を御覽あるか金剛妙色乃雲中三字乃眞聖あり
 東乃殿ハ善現殿と額なり西乃眞聖喜見城南乃樓ハ字益胎現とあり如
 尊阿羅漢を顧みひ予が法を説かぬ南殿なりと女時傳まゝ在る東室の
 玉座を用ひ飛行神力乃天童數百人小團繞せし帝釈天出現し世尊を恭敬
 礼拜し曰妙覺無為乃如來も來臨を辱せし妻天上乃幸福何乃幸々れ
 退りなれと拜謝ある世尊も答れし曰此切利天來る妻三箇條乃專用あり弟
 一五六七億七千萬歳賢劫三會の曉彌勒菩薩出現未證乃衆生と降度

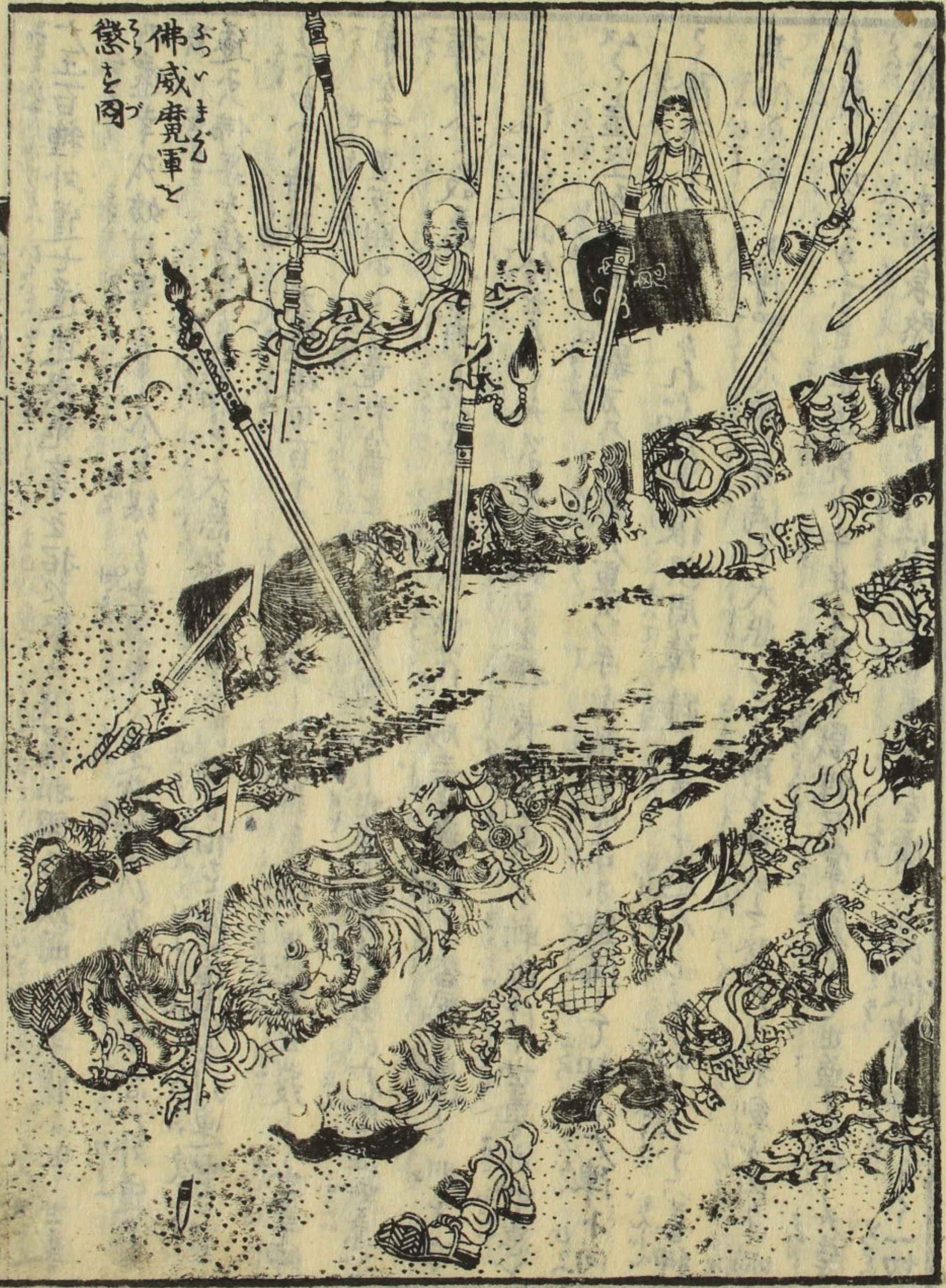
有るは時乃為前佛後佛の血脉を授けん為二ハ大集月藏經を附屬し
 母中在む報恩乃為説法し母乃為なりと仰る帝釈天不審思ひ
 如來の金言疑ひなるふあはれも后妃乃年八十才たり世所生の母と仰
 るハ如何なる證迹乃いやと問む世尊曰后妃乃因位の昔ハ伽陀國乃王淨飯王
 乃宮妃の備り一耶夫人中予が出生後七日の後逝去し以て愛執乃間は
 多し予其苦患を救もん為慈悲修行難行苦行乃功乃依て無明乃間
 然出上界の生を受君の後妃の備りなり猶も疑ひを兼て二世の對面を
 時乃證迹予胎内在し時乳汁を残り封たり今喜見城の帳内を乳汁房と
 終りむ乳汁送りく予乃内通下いん示し帝釈天奇異乃思ひ
 天童が後妃の御許に如來乃金言を傳へし後妃ははれ妻の思ひ
 如來乃金言し帝釈天の勅を已妻を得る九重の翠簾乃内三重の錦

帳を備へ素雪の御胸を用いた乳房を絞りぬ乳汁糸を曳り如く錦帳を
 超翠簾を漏り世尊の口内を通りたるを不測りる帝釈天の阿羅漢も此奇特
 を見りあゝ感下思ひを首に依り傷仰ある后妃ハ歡喜小勝むを玉音見殿を
 主出く世尊を礼拜し玉の二世の對面なりぬ世尊も后妃を拜し其後字
 益胎入玉の帝釈天の前佛後佛の血脉在る月藏經を授与し次后妃の為
 小般若を説く人具小依て后妃宿命ハ織善根純熟し永く生老病死苦を免れ
 ぬ其御飲の余り后妃捧り花を手折り如来に捧り願ハ一佛浄土の引接を違ふ
 事なれと固く結縁して拜し玉の摩訶曼陀羅華是なり今佛前小花ハ献る人
 ハ慚愧懺悔万徳圓滿ハ阿曼陀羅華と此文を唱へ捧りたるを諸天諸菩薩
 納受り一佛浄土の基小到んと疑なり

提婆達多冠世尊 牟都婆功德

世尊已小慈母と二世の向顔なり玉の純法残る所なく終り玉の今ハ下界下らんと

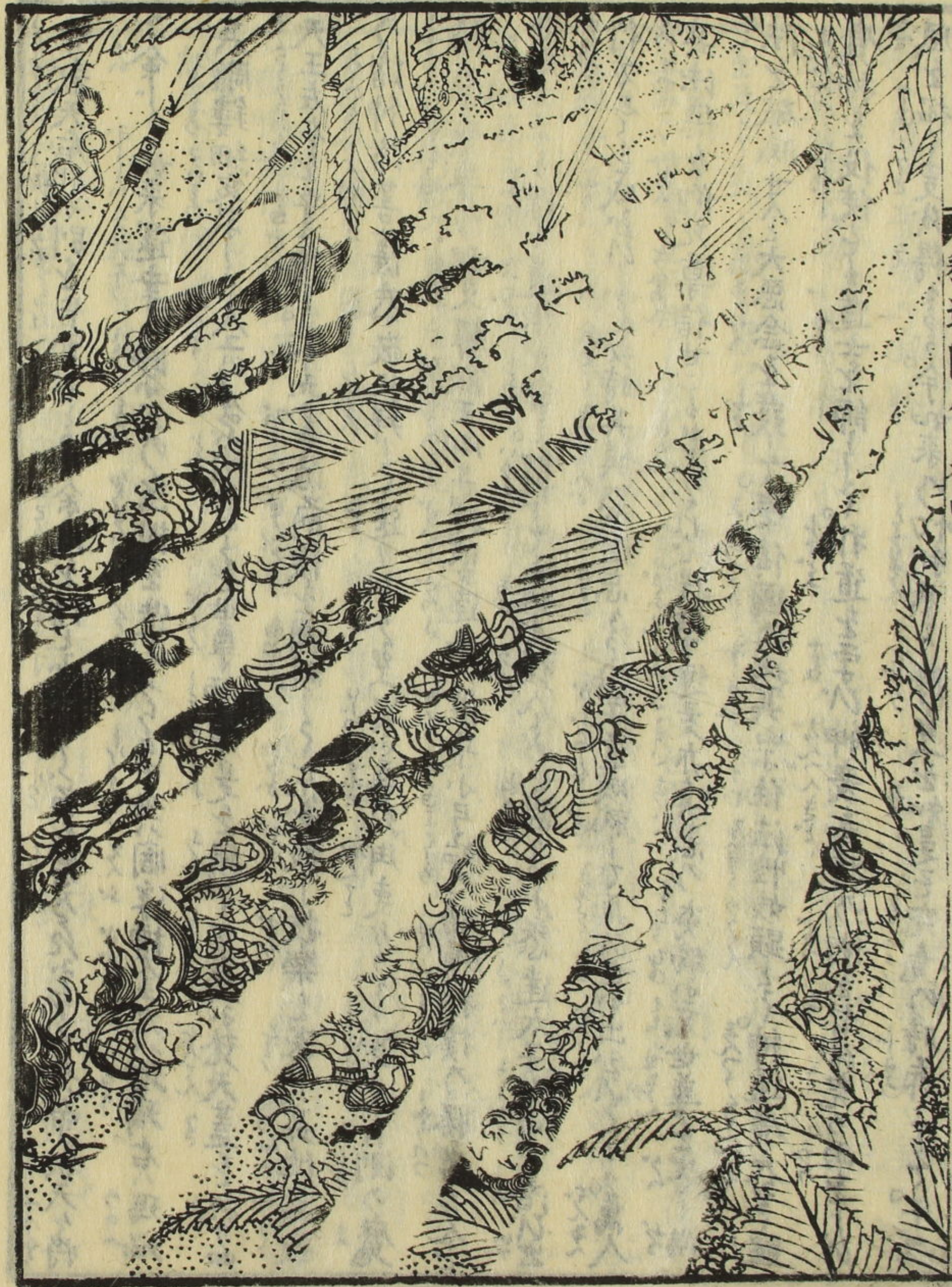
帝釈天后妃別を告む心も小余波を惜みかひかゝる苗多果をたわむれハ帝釈天ハ將
 小命ハ如来還幸の路ハ三の室階を造ららる中央ハ箇浮檀金左ハ瑠璃右ハ瑪瑙
 其雕鏤細密ハ一人の及所ハあり世尊師弟是を踞り下ハ小梵天盖を執り四
 天王左右を守護し二十五菩薩前後を圍繞し花を散り技樂を奏し其他無數
 乃緒神緒菩薩恭敬礼拜し送りたり小実小尊ハ御妻なり然るも不測の魔
 障あり世尊の叔父解飯王御子提婆達多ハ往年小弓始の勝負相撲の勝劣を
 小敗せり深く遺恨を含み如何して仇を復んぬと思ふ小悉達太子宮中を潛み出
 行方未だ成りぬ女時其嗔怒を忘る小学道成就して再び世に出かひく萬人
 其法徳を仰せ尊信せざる者なれを提婆達多亦嗔恚の突胸小死世尊を害し佛
 法を破滅せんと大惡念を發して摩揭國の北真山小住法性妙顯とて神通廣大能
 魔神を役使し道士を師とて邪道を學び神變奇特の術を習ひ究り兩をよび
 風を招き更成得る今如来の切利天より降聖を知是ぞ究竟の時節とて十六



佛威軍之
懲之圖

大正四年

十一



秋遊圖會卷四

十一

大王百種外道七道速疾鬼等を招於聚波羅那國の鉄田山の平腹小池。世尊
 乃還幸於妨け害しをもんと謀る世尊早く是を知りて此の怖を緒羅漢を引連雲上上
 遂に佛果を得せんと却て大慈愍を生じ此の怖を緒羅漢を引連雲上上
 以下不待役一天魔破旬百千の悪相を現し毒霧を降し黒雲を發して世尊師
 弟を千重万圍おし利箭を射る更雨の如し世尊微笑し以て大伽薩如意の
 揮むに數萬の箭前を忽ち五彩の妙花と成毒霧は却て香風と成り肌を涼
 しく大軍此体を見ん大も怒り鋼刀を揮長戟を回し斬近は世尊亦如意の
 以て虚空を拂むに數萬乃刀戟大軍の手を離し空中に編滿して却て陣小向
 降下と雨の如くなれど大軍狼狽周障障を及して逃んとするも天王十善神
 其他無數の天將四方八面を充滿し大慈の弓箭を張或は降すの利劍を閃く喊
 を發し攻むも進退究り手足を張る戦慄只掌を合して世尊を拜し大慈
 大慈本師本佛哀愍を垂むと慈愍を世尊是を憐れむ以て微妙の御声よく一切

如是大慈師緒悪莫作衆善奉行共益横難と唱むに刀戟大軍の手小回り緒
 天弓箭を絶し大軍深々慚愧し身を急し形を消し逃失れ提波達も憫
 果唯一身となりて這々巡回し本國小用籠り小面を令得を深く身を耻る悪
 念八猶弥増す如何にして世尊を害せん日夜悪謀をを回し世尊大軍を以て
 伽毘羅城小還幸あり夕陽山を改し大河大耶山と号し清境殿を梵刹して切利
 天正すと号し初く父母報恩経を説き以て鳩曇彌夫人乃為小菩薩大河般若経を説
 む以て烏將軍夫婦乃為小慈悲心報謝経を説き其他月御雲客の為小種を妙経
 を説き以て佛法皈依する人益多く愈御弟子乃數まきり其後世尊猶も
 緒國の悪種を降度せん。緒羅漢を召具して大伽陀國を立波羅那國を以て赴た
 る所小提波達達國中の兵を募りて郊野小埋伏し如来師弟を害せん謀りたり
 三明六通の世尊早く是を知りて猶も体小く緒羅漢を後へ野徑を過り
 提波達よくとんとる一號炮をきく伏兵小指揮し二十萬乃兵馬一各小發起

釈尊師弟を百重千重に取圍む。其前於射ること。雨の如く。刀劍乃霜を降し。攻
 進む。然も世尊及び諸羅漢乃身より金色の光を放し。日輪に向て如く定ふ。
 姿を足らむる。更能く。其前へ悉く半途より飛回り。提婆女軍を射る。然も
 如来の慈力に依て。一人も傷者なく。刀戟を揮者。八金光に眼眩し。近付得ず。れ
 ゐ進する者。由世尊乃慈顔。向て悪心。念ち善心となり。我も。刀劍を捨て
 恭敬礼拜し。と。よ。百千の陣。自然解く。安々と波羅那國へ赴たむ。其提婆
 達多。大氣。焦燥。自身三叉の鋼鎗を。提金翔鳥の如く。ま。追蒐。ま。小
 前面の大地裂く。猛烈と。炬出。焰提婆女。身を焼く。と。ま。大の。後。た。ま。ま。
 道を。ま。追人。と。れ。前面の地。俄。と。て。大河。と。なり。波瀾。を。奉。深。た。く。底
 次。と。是。小。依。提婆女。を。嚙。憤。と。世尊。追。と。能。と。手。空。
 て。本國。引。回。し。斯。世尊。師。徒。提婆女。難。を。避。波羅那國。高盧山。乃
 麓。を。過。り。其。小。高。サ。丈。の。黄金。乃。平。都。婆。主。と。り。世尊。傳。ま。り。礼。拜。し。お。ひ

一見。平。都。婆。永。離。三。惡。道。何。況。造。是。者。必。生。安。樂。國。と。唱。へ。兩。眼。小。脚。洞。を。と。り。死。す。
 大。加。葉。見。し。り。不。審。し。平。都。婆。十。地。等。覺。の。功。德。あり。承。ま。も。妙。覺。無。為
 乃。如。來。偈。仰。礼。拜。其。の。ま。か。を。脚。浴。洞。あり。如何。か。御。妻。小。や。向。世。尊。曰。如。葉。の
 不。審。理。か。り。ま。り。か。ら。此。平。都。婆。小。就。統。治。を。な。す。物。結。あり。此。波。羅。那。國。の。都。城
 を。波。羅。斯。那。城。と。号。し。今。より。三。生。前。の。王。を。慈。明。王。と。し。以。后。妃。を。好。香。夫。人。と。す。
 其。の。金。色。太。子。と。り。皇。子。在。せ。り。又。慈。明。王。因。位。乃。戒。行。拙。く。難。病。小。悩。伏。せ。り。お。り
 臣。下。高。議。し。て。普。く。名。医。を。需。り。療。し。れ。る。女。も。功。驗。なく。愈。病。苦。を。重。く。る。お。宿
 陀。山。の。河。宿。部。仙。人。慈。明。王。の。病。を。看。此。病。を。平。愈。せ。ん。と。欲。せ。し。生。く。より。以。來。憤
 怒。を。發。せ。ず。と。仁。心。深。く。人。の。意。を。破。ら。ざる。人。の。生。膽。を。取。り。与。り。け。り。即。時。快
 復。を。得。し。と。奏。し。群。臣。是。成。す。と。曰。そ。も。人。と。生。く。生。涯。憤。怒。を。發。せ。ざる。者。有。る。
 ま。や。の。り。へ。や。善。惡。小。就。人。乃。意。破。破。ざる。者。猶。有。る。と。世。小。乃。其。藥。を。求。ん
 たり。又。王。を。流。汝。川。の。北。岸。小。捨。太。子。を。位。小。即。ま。る。と。議。定。し。好。香。夫。人。造。更

我皮むひく深く歎たむの太子の子細を告ぐ仰る又大王悪病小卧む臣下の
 徒流沙河捨ちまると穢をたて國の換りも争う大王一人を捨ちまると思入吾病
 も俱小流沙へ赴くをたれむ承く太子と別れん雨々と泣き太子生る
 以来怒む憤らむ入る心を破る者の生膽を用ひて又王の難病愈む
 凡是を求くるを何と捨ちまると曰む夫人大い悦びむ其未く進
 せむと宮中四り金色太子近臣小密意を云合其夜自身胸を裂て生膽を
 引出し臣下小子く死し又臣下下洞を隠し太子の生膽を普小入さるに休む大王
 小献み王歡ぶ即時小用ひむ小仙人の幻果して違ふとて難病一夜乃内小平
 愈あま上入り下萬民を悦ぶ限り然る後太子自己生膽を裂出て
 覺去あま又露れ又王母夫人天小怒り地小歎た深く悔む其甲斐なれむせむ
 太子の菩提乃為小く黄金乃率都婆一千本鑄させ一千國小渡して供養あふ
 夫人も同じ黄金を以て觀音大士の像を二千鉢鑄させ是も千國小渡して太子の後

生善所を祈り此功カ小く金色太子八子又淨飯王と生る四天下乃富を極え
 むり然も又大王因位乃率都婆たれを感涙をとりり抑率都婆又五智乃功
 徳あま五明神力乃尊形なり如葉向て曰何を五智と云い世尊曰東ハ成
 就作智少く下化衆生乃神カあり本地留瑞光如来諸法通カ乃徳を具隨縁真
 如乃形カ鬼神魔佛十界化現の利益なり南ハ明観作智少く出世々間の神カあり
 本地光明王乃尊形色即是空々即真如乃相好無明乃闇を照し不変真如乃利
 益々西ハ平等正智少く本地阿弥陀如来諸法引導乃功徳を具縁無縁乃
 福カ攝取乃利益深々矣相真如乃相形なり北ハ四鏡智少く本地法性如来十
 界依正乃陣内を清淨堅固小具諸法成就乃功徳有々魚導真如の相好なり中
 央ハ法界他生智少く真明堅固功徳成就の神あり本地何因佛座緯思惟の妙量
 少く解脫真如乃相好なり以上を五智乃功徳と謂り亦五明乃所銷空風火水地
 是なり天地を以て林く諸法を以て種く諸縁を以て因く諸行を以て果と

云然を平都波を一度見る時十方乃陣内諸法乃道理諸佛乃依地諸願の功
徳を所明なり東八木鉢青色形四南八火鉢赤色形三角西金鉢白色形半
月北水鉢黑色形四中央之鉢黄色形方乃此妙鉢を録し法成就行
成就願成就神速成就ともん佛といふ佛四種なり法佛化佛理佛直佛是
如是功德廣大也他の教をすべし即心即證乃功あり平都波乃緒佛出
世乃妙法唯平都波子筆筆しん故平都波を拜する一見平都波永離三
惡道何況造主者必生安樂國と唱へて説き如葉以下の阿羅漢感涙小じ其美
難有平都波乃功德多し各恭敬禮拜し世尊不從以波羅那國へと赴き
提婆達多勸謀叛解飯王

解飯王乃太子提婆達多之弟也此般由世尊乃威神力小拉れ謀計画録と成れん
大の望を矢ひ國へ逃回り心快くして樂まむ只管佛法を妨ぐるを謀計を廻
し熟考して思惟し八樹を拈入る欲する時其技を前介り其根を斷ふ不
如

我が釈迦と亡滅する此理を以て推して又解飯王の謀叛を勸む如泥國を伐て淨
飯王を弑せし釈迦自ら滅亡とせしと亦這大惡心を生じ解飯王不見と云ふ頃
日承れ如毘羅城乃淨飯王七星の政乃節臣下を集り議せし平都波子釈迦
無為正覺乃如來と感て天下乃至尊なり然るも未居住乃國乃朕が種族
中成るる不旃奈羅國乃甘露飯王乃良摩國乃白露飯王伊汝那國の解飯王是
日種連枝なりと垂朕が為弟より臣なり是れ年々の朝貢其心を更け時々恭觀
し慶賀を述べ給ひ独解飯王の野心を懐かしく恭觀せし驕奢を放逐し耽り
酒を重罪を殊罪其子提婆達多亦惡逆無頼小して生靈を殺害し
酒行を乱る是を捨置時下民怒り殺れ遠小逆乱乃緒を引出し國家
自ら他人乃為小解吞せしる不如此朕四兵を發して其罪を可解飯王父子を殊
しく伊汝那國公取其を殺す小へ香華法燈の料とせし國家長久子孫繁昌
乃基からと仰せられし群臣是を卓給し承伏して暗小征伐乃準備

のいり其はえあり是等閑なり一夫たり構う御由跡いまい年古巧み織りや
 むと流しを素り子不迷六親乃り六親飯王提婆達妻を聰明睿智の者なり
 と思ひ愛ふ溺し妻かれを是を戒とて大は其流飯王さし由聖主ゆへ不仁
 成敗露れも非し何故か暴悪の君とかりむのえと拳を握り憤らる
 提婆女又か怒激り体をく仕果たりと悦び又幸く思ふ来果悉達太子天龍の為
 小惑され宮中かえれ出深山入く外道を師と邪術を弄釈迦如来の自抹
 諸國を往歴し怪れ法を流邪道を勸ふなり愚者乃男女彼か妖術小眼
 を味まれば年古小魅され親を捨妻子を捨剃髮染衣乃姿とちる者故拳とる不
 追あらむ已小甘露飯王乃子廣耶太子の渠が徒弟とかりく阿難と名呼白露飯
 王乃子純陀太子の釈迦小惑され僧とかり伽難と称と一國乃皇子と猶如斯
 かれ増て況其余乃者小於老下人主小暇を乞ふと剃髮し子ハ親不告ふ不及
 染衣を着し皆釈迦の邪道入ぬるを其主其親も却り是を殊勝の吏と心

得主六下人小奇狀供へ親ハ子成礼拜と出依と僧とを成勝とる吏と思ひ情思由
 不顧釈迦の門小飯とる者哉千萬の限をあらむ思男由由非我心修行を勸る者ハハ
 争う大思の父母を捨妻子を捨血脉を断子孫を絶と如た惡道入るを
 緇耻めり四山は是等乃更釈迦の耳小入恨を會し淨飯王誨せし此國を
 攻亡とる死結構由出来し小を口と口出る小散と純傍しこれを解飯王培怒り思
 九釈迦行跡の原深が母天耶八天魔乃障導少く妊娠三年の間孕し其臨産
 乃時由種々乃怪異を現し右乃腋下成蹴破く出生せし將小親を殺せる鬼子乃り
 然る由淨飯王由大障乃為小昏迷すれ其仇を忘る養育せり悉達ハ其重思を
 不顧擅小宮中を出憂愁をくる吏十數年適還り来む姪九法を流布し
 愚俗を惑し忠孝の道を廢すむ是真小亡國の教小く千歳小毒を流すと
 謂を好く我天下萬國乃為親兄乃淨飯王を伐亡し釈迦師弟を屠殺して末
 代邪法を信むる者の滅せんと飽ま提婆女が妄言小惑され父子謀を示し合せ

是より時々臣下が聚る軍議一兵馬を調煉する心ある輩大に後を辞す
 竭く風練をれいし斛飯王敢て練を不用一國小大伽陀國攻伐の準備成たりし淋
 雨降續る更し暗る日か緒所小洪水溢る官家民家は為小漂没道路水深
 た吏一丈小余り緒方乃往返船かて八通ざる更能く國人雨濕乃為小患病を
 を生じ家々戸小悩卧る小を斛飯王大の憂ひ攻伐乃更さく其雨を止むる法を
 需むる乃外他吏を提波も愚果巴師法性妙頭を清めて雲雨乃法を修せし
 ひと虫其驗かく愈降つた淋雨三月小及び百草根を断り大飢饉となり國
 中乃困窮磬人方なり是偏小教尊を害せんとせし皇天乃惡之故方智
 臣小種々斛飯王を誅する小女一懺悔乃心生り大伽陀國攻伐乃念を止自巳罪
 を天小給へ誠心小祈られ其赤心成感納有え徐く雲霧雨止れを國人も
 て白日成拜し回生する心地して悦ぶと限りし

世尊使難陀羅羅羅見三兵士

世尊八波羅那國の統法終り夫より緒國を回りと衆生を濟度しむ亦ナ
 迦陀國伽毘羅城へ回少の千二百五十人乃阿羅漢と俱小勿利天正寺小任し
 九月十日より幾心三昧經を説む小緒羅漢小如法行如律行如実行の三行
 を附屬あり翌年卯月八日より又母報恩經を説む小淨飯王橋曇苾其外
 新宮女官百司百官妙惠居小至る小法座小参列し聽せし各隨其乃
 泪を催し多し緒統法終り緒脚法座を退れ商議し多し如来這國小還
 む小八海中の優曇華乃同一小等しく國中ハ之を更たり近國遠境も如
 来成偈仰し多し萬乘乃宝位小即ち天下倍奉平小萬國從靡た
 國家乃采萬代不易なる所此音帝小奏受せん如何とす多し是ハ之も目
 出度経儀方り是亦勝る長久乃良策ハあり疾々其音奏せし衆議
 一致し緒脚袖を陳し忝内小如来脚儀位なり多し其音奏しれ小淨飯王
 殊更小龍顏應く実ハ之針らひたる多し朕も兼く此吏を平日小願ハ如来

小王位は譲るわらむ。生前の本懐死後乃満足是亦不遇と思し。如来の深意
 於量る。未口外せし。然亦卿等已小朕が常願の如く。被議一致する上。如
 来小錫して。讓位乃議を告ぐ。と。紹命ある。緒卿大悦び。鍾々領事。直小
 切利天正寺。奉向。世尊小拜錫。告ぐる。八倍も君いま。乘達太子と呼れ
 玉ひ。御時より。聰明睿智。小玉む。大王も。めなり。百司百官。民間賤の末
 子も。太子宝位。小就む。轉輪王乃威德隆。小四天下。臣伏。萬民太平の
 樂を極む。天晴早。成長なり。と。祈り。小不意宮中。外潜出。悲心修
 行。方々。む。上一人。下。萬民。小怨歎。乃。闇小迷。日月乃。光を失ひ。心地
 小難行。若行。乃。功を重。無上正覺。乃。如来。と。現。神通自在。を得。む。還
 幸。あり。東海中。乃。優曇花。乃。開。一國乃。悦。此上。萬人の願。小
 小君。轉輪王。宝位。小即。せ。萬機。乃。政を執。せ。國富民榮。大迦陀國。公。萬
 代。不易。乃。般。昌。小。御。又。大王。平日。小。此。義を願。む。如来。乃。深。慮を

量る。玉ひ。臣等。小。紹命。御即位の儀を勸め。所。小。あ。ハ
 是。御。承。列。乃。玉。臣。等。幸。福。何。事。是。小。過。の。冠。を。傾。け。以
 揃。て。告。ぐる。世。尊。熟。中。乃。仰。等。が。食。議。理。乃。特。小。又。大
 王。乃。倫。言。と。あ。れ。孝。道。乃。人。望。と。以。て。背。が。然。あ。れ。我
 一。生。乃。大。事。ハ。檀。特。雪。山。修。行。の。阿。已。小。究。り。即。位。乃。更。由。さ。る。更。乃。れ
 小。子。が。想。多。一。大。願。十。小。て。い。其。二。を。由。果。さ。る。は。大。願。満。了。は。左
 左。右。中。乃。を。先。緩。々。更。を。議。し。不。倚。不。逆。御。辭。小。諸。卿。達。由
 按。小。相。違。一。乃。強。く。勸。め。事。由。不。能。願。る。大。王。御。孝。道。臣。下。ハ
 哀。愍。を。小。脚。願。満。む。御。即位。乃。む。と。辭。を。遺。し。退。散。た
 り。世。尊。何。と。思。召。人。同。連。を。以。淨。飯。王。奏。を。由。小。若。君。難
 陀。太子。并。小。羅。睺。羅。が。為。小。説。死。法。の。此。方。乃。母。公。慍。曇。拏。夫
 人。其。余。好。容。笑。容。雨。夫。人。新。宮。女。官。中。聽。受。乃。乃。紹。命。乃。告。す

世の身不依く淨飯王より三臺乃后宮新宮女官難陀太子を先小五
天正寺へ結ぶ女惠比丘尼の羅睺羅尊者を誘ひ去り比丘尼を誘て同
く法座の著る世尊八千五百人の阿羅漢を集へ自己獅子の高座
小上り説く。これ人々心有り智ありを鈍根の者といひ智有て
心ありを利根の者といひ心も有智も有を有善人とす。心中なく智
も有るを愚人と号す。此他小三重病人とす。三世諸佛の慈願漏れ亦
慈願不可りを大慈大忍捨られぬを救ふ者あり。是を
漏れを結縁とす。成五重の傳く。五法眼教の相傳と号す。是を太
子及び吾が兒の心然用た智を闡くる人々を事有とす。難陀太子
羅睺羅尊者の御手を取て阿羅漢如意を以て虚空を三度摩れむへ
む。二人の太子獅子座を離れ虚空小昇り形を見えをかり其衆人大
い小説た何と弁るまかり世尊其阿十六御弟子と俱小淨雲を招下り

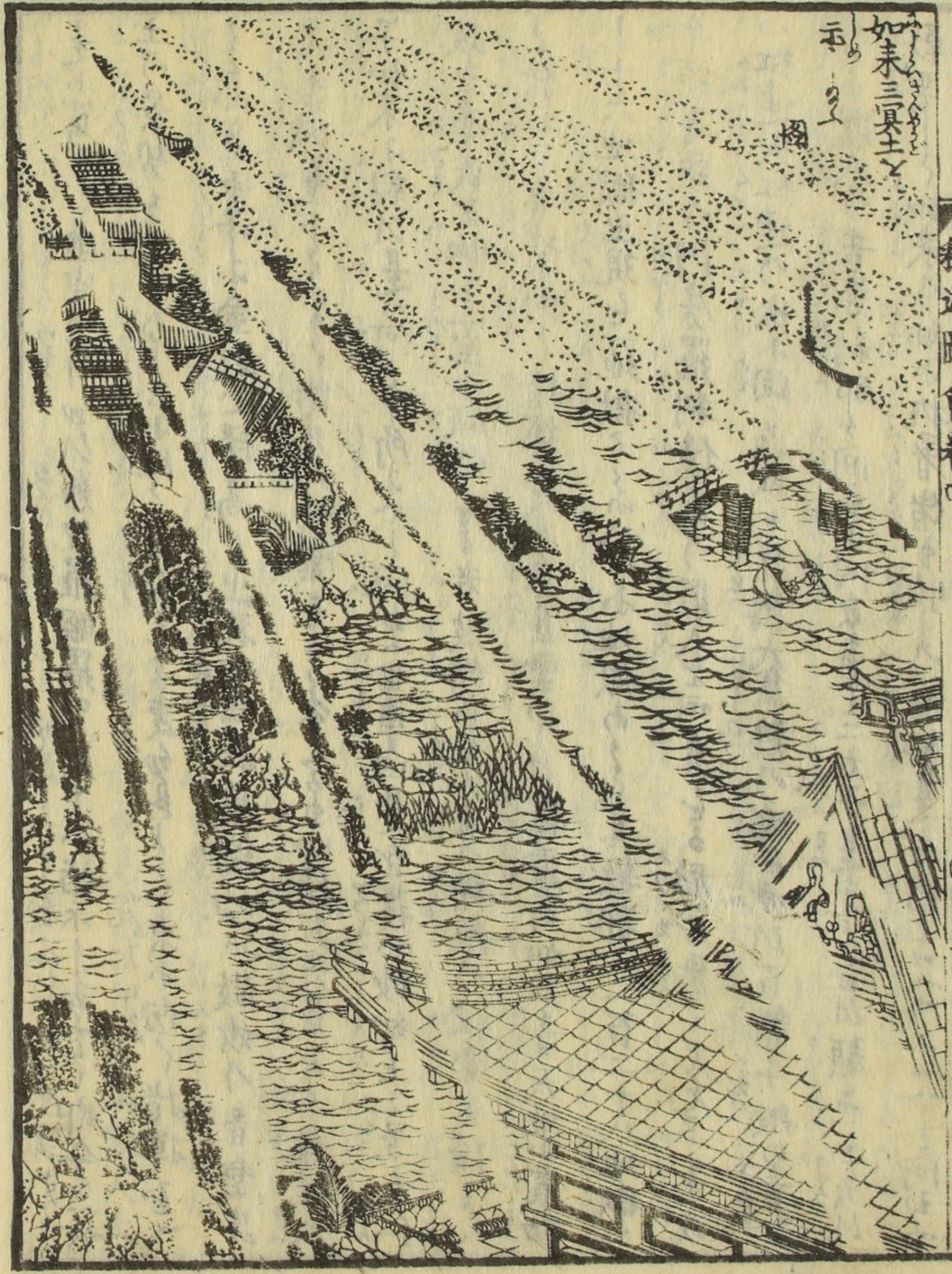
是小駕く虚空小昇り難陀羅睺羅の二太子小指示り。即今三妙
土乃景勢を見む。心小記く失念とす。東小向く指揮むへ
む勿心然雲中小金殿玉接高く出現七宝莊嚴端的小微妙の音樂皮
え香風薰く。諸天人快樂とす。心清れ光景あり難陀太
子如來小對ひ。是は何とす所小やと問ふ。世尊曰。是を幾心妙智と号す。仁
政を布民を恤む。三空小皈依とす。者彼所小生を受緒般の快樂を結る。
と教示り。亦北小向く指揮むへ。忽然雲ひけ霹靂の如く普天地小震動
し。十八地獄出現と。地獄と。十八の小地獄あり。其數都二百二十八地獄。
牛頭馬頭の阿房羅刹億萬の罪人を呵責とす。形勢悉く見えたり。或
ハ紅蓮大紅蓮の氷小閑く。或は焦熱大焦熱の焰小暖ひ。百態千般の責と
受る罪人の苦患刹那の間止同なれ。二太子是を見む。顔色を失ひ
戦栗し。如來の袖小執着。怖の形勢是と何とす所小やと問ふ。



其二

釈迦圖會卷四

〇二十四



如來三具王
示
圖

釈迦圖會卷四

〇二十五

世尊曰是を方便化身土と号し。悪政を絶一民を屠げ或人を殺害一生類
を屠殺一悪業を重一者罪乃輕重不後以彼所不墜落と怖て怖ぢり
教示一多羅睺羅尊者問曰何ぞ罪人の中より彼猛大乃尤も陷り
んとされと不脇叫んんと声出せと昔に小兒を如何なる罪を造り
一人也と問ふ世尊曰渠ハ儀伯仙無見仙と云一二人の道師なり予は母
乃胎内不在時馬將軍とい者の死に應じ予が母摩耶夫人を縛伏し出産の
道を閉塞し罪不依り。浴を地獄に墜斯の如く呵責を受ると三十余年
今救ひ得せと云。如責を按し初念ふ無見儀伯の靈鬼徐そ大宛
を這出地獄を離り漸く近著大慈大慈南无本師本佛釈迦牟尼如来と
唱合掌礼拜し撥消如く小を失ふと云二太子益如来乃方便力を敬ひ
あふ世尊亦西向く指揮を忽茲雲間に極樂浄土出現し七宝の堂塔と
も巍々然と光明十方を照し。化佛報佛金光明の臺より臺へ通ひ

好意詞中及まれを二太子信心肝不銘。是ハ如何なる靈所小ハヤと問ふ世尊
曰是を法性法身土と云。慈心修行の功を積一切衆生を濟度する可水く
生老病死を離れ彼所へ往生するなり。然も生前の行い因り或は方便化
身土乃苦患を受或は慈心妙智土乃快樂を受此理を考り心智も貴
くれと教示。如意を以て虚空を拂ひ玉ふ。即ち夢の覺る如く二人乃太子ハ
一瞬の間に世尊羅漢と俱師子乃高座に降ふ不思議といふ疎からり
斯く世尊ハ富留耶者小余之三眞土乃形勢を遂一に説せ玉ふ其自己
大慈報謝經を説玉ふ五位七性五常七攝等精く説法玉ふ而して仰るハ
惣く人の子と生る小四種の品あり。一小白有本願乃子。是因位より戒
躰を遇し其生る子三宝に結縁し三眞如の道廣く上求菩提乃功德
を重ぬ。父母も亦も小魚上の位に至るを繋り。第二小敬来乃子。両親小孝
ありく六親不礼深く。外ハ五常を乱し内ハ三宝を敬ひ供養するを繋

リ弟三小白來憐乃子因位乃戒行を過りて犯法邪命なるゆへに生れ出づ悪
 病小惱二親小歎をうけ自然と貧窮乃身となり。短命なるを習り弟四白
 盜劫乃子因位の悪報依り生れ出づ我慢心強く兩親師友乃命小從子
 善を惡と惡を好む終小刑戮小身を亡し骨肉葬多小地を習り予難陀
 太子をんる小正しく敬來乃子れ此國乃縁を受十善乃位小即ち國家
 昌平や萬民安穩なるを習。緒卿トク此意を悟り他の人小讓位乃汝汝
 有るをむと示し其目乃説法畢をれ浄飯王宝篋の裡より出御あり
 實難有如來乃説法を胸中乃雲霧霽りれ今王位を難陀太子小こ
 を讓るを勅し難陀太子三眞土の景勢を眼前小見しを怖く護
 心小まなく思召多小浄飯王讓位乃勅命有をれ心小控縁を生下是れは答
 をたしむ世早其意を知り曰く御身三眞土を眼下小見く護心
 修行を欲しむと奇特なれも見る物小就て意乃動を見我の迷ひと号して

戒乃心小あつと只出家乃望を止り帝位小即ち仁政を布む自然孝道を
 其功カ即ち三空乃結縁となり正覺を得る期有るしと練む小あり誰
 陀太子佛智乃端的なるを感得遂承伏し是依て浄飯王も諸
 卿も大悦び如來を礼拜し其日法座を退出しむひたり

世尊昇殿賜勅衣

浄飯王八世乃説法を聽あり難陀太子小讓位有るを小覺意
 定よりむ小就て世乃法徳を崇むむ王宮小結して供養せむ
 やとつ初利天正寺勅使を立む世乃阿羅漢小昇殿あるべし昔
 を告させむ世慎小勅命を承りむ十大弟子十六羅漢一千五百乃
 比丘一千乃比丘尼を召具し参内し兼て浄飯王乃紹命と上官を
 宮殿小参列し如來を待たり中官之城外より迎接小出下官や天正
 寺より迦毘羅城まで乃道路を洒掃し不浄を拂せむ此兼て隠れ

な多れを國中の貴賤老若其形相を拜んと香を焼化を捧ぎ路の兩
 辺に群り手分り地を中残さず居たりはより茲小解飯王乃太子提婆達
 多之疾是を安す先亦由懲がとせざる乃行道を妨んと惡く外道をうらみ
 迦毘羅城あり闕ども空中の四天王より五十二乃薩摩百千乃天將如來
 乃行道を守護し玉を辺りくも近著得む借せざる千二百乃四維漢を二
 行小分ちく先小進ませ二千乃比丘尼を二行小分ちく後小續くせせざる八十
 大徒弟十六羅漢小圍繞せられて中央を歩むに迎接乃官人も二隊小分れ
 前後を發言同し管絃を奏し通行を路上の貴賤を如來乃形相を
 拜せざるも感涙を流さる者なり斯くせざる師弟宮中不入玉を上官の面
 々迎接し致乃玉座へ請しよりぬ淨飯王の難陀太子を從へく出御の上世
 尊小脚對顔ありく忝内乃疲を勞ひ玉ふと如來も禮拜しく帝息と深
 く謝し其時凡景城乃憍曇殊夫人今乃女官を収く奏問有るハ如來

の昇殿えとく難有御更小い法衣を献りて想さむらふる睿慮を伺
 ひなりいと告せざる帝更乃法衣を進せせらる更をかれども如來往年
 檀特修行乃より羅穀乃淨衣をざる不淨乃色衣と脱捨ありて空如何
 有るを倫言ある世より安旨言さる更小い其因ハ殺心修行乃初三
 大耶行乃形かれ錦衣玉飾の憚りゆかり是ハ三王供養乃信心をこめり
 切位乃法衣かれ慎が頂戴しとせられなりと曰帝理と思召其昔女官へ
 仰せされ多ふと主面く憍曇殊夫人小斯と言上り夫人歡喜科なり金
 色乃錦乃法衣蜀江乃錦の袈裟紺縹蘭蓉乃卧具筆を女官小齋し
 如來小献り玉是を布施乃初より波梨舍那城乃好客夫人吐那瑠城乃笑
 暮夫人其他鹿野瞿陀弥乃二新宮及び宮中乃女官吾もくと三王結縁乃馬
 かりく小色々の法衣袈裟卧具を諸羅漢諸比丘諸比丘尼小献せり世
 是を見玉以徒弟小向く問玉法衣乃修行の更衣真行あり真行衣あり

真行衣のあつを衣真行のあつを因安不衣の因奈何舍利弗答て曰水月自
然なり。雲無心ふて山の岫を出るが如し。世も亦向ふ。施主の厚恩喜悅を
を眞倒謝せどもを鬼畜ふひ。迦葉答て曰功德崑崙の如し。罪福無量なり
如来亦向ふ。世間出世の道理を察する。更奈何因連答て曰無手人無舌
を叮く無舌却る其科を結る。空魂舍利と世も歡喜しむ。善哉々々。功位不
可説なり。因縁不可思議なりと賞譽し。今乃世僧徒小國王より勅衣を
あふ。更是其推与なりと名。斯く世も宮中ふ在る。諸善奉行の功德附屬の
説法をた。更上七日小く。王殿を辞し。忉利天正寺へ面りむ。ひき

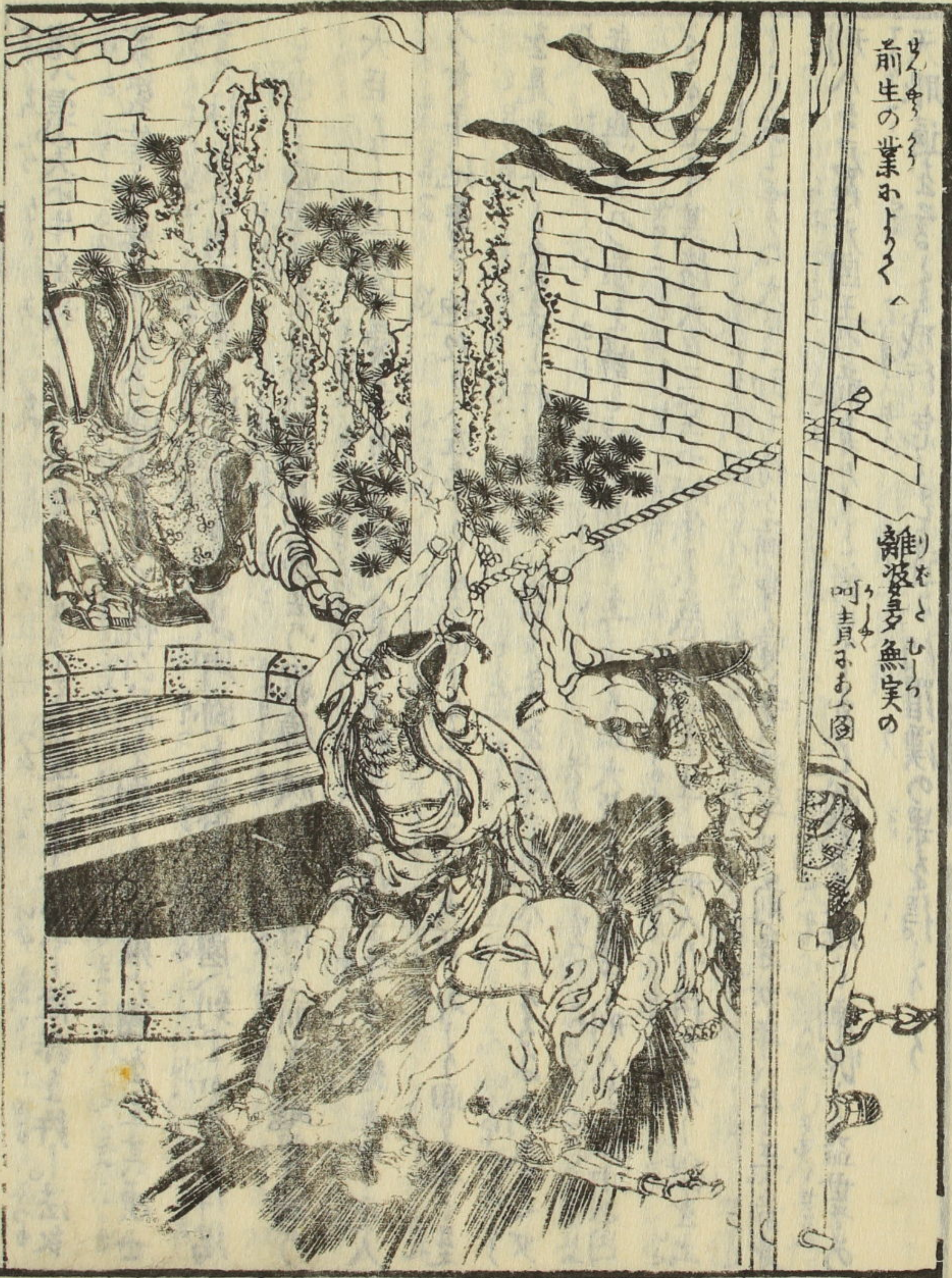
離婆多因無失囚獄中

茲小尸羅摩在國乃人小離婆多。の者あり。天性頓悟總明あり。仙法を學び
神通を得。釈尊世小出む。諸國を周遊して一切衆生乃為小緒の經論と
説ふを聽き。深く佛法に皈依し。仙道を捨る。世もの徒弟となり。小
或阿如来離婆多小向て曰。你前生あり人の縁言を信し。無実乃科を以て人を
困や。惡因いよ滅せむ。故郷へ回て阿羅漢の行をな。罪障を果し。後予が
門小来れよと教示し。更小離婆多佛命を領掌し。尸羅大國へ回り廣脇山
と深山小入り。草廬を結び穀食を斷。菓を喰ひ水を飲。阿羅漢の行を
なす。一歳余小及ぶ。奇特もなり。これ些心中小退屈を生じ。身を
顧る。小木蘭涂乃布衣垢付破れ。是小依り法衣を脱て。綴補し木連樹と
ひ木の枝を伐く。是を剪出。其糞汁を以て法服を染。樹の枝小掛り。日小乾
り。乾も亦深く日小乾。數日如斯く。稍戒行を怠り。茲小此廣脇山の林處
小牛成。鬻ふ布有る。小一日頭の黄牛如何し。鼻緒解く。山上遙小。登
る。れを牛至心慌て。其所よ。這所よ。尋登小一人の比丘僧。草萱折りけり。庵
小座し。居り。牛至喘々走り。看如何道人。今信路へ頭乃黄牛奔来り。な
り。何きの方へ逃往ひ。知む。教む。と向離婆多素り。牛の来り成んが

或阿如来離婆多小向て曰。你前生あり人の縁言を信し。無実乃科を以て人を
困や。惡因いよ滅せむ。故郷へ回て阿羅漢の行をな。罪障を果し。後予が
門小来れよと教示し。更小離婆多佛命を領掌し。尸羅大國へ回り廣脇山
と深山小入り。草廬を結び穀食を斷。菓を喰ひ水を飲。阿羅漢の行を
なす。一歳余小及ぶ。奇特もなり。これ些心中小退屈を生じ。身を
顧る。小木蘭涂乃布衣垢付破れ。是小依り法衣を脱て。綴補し木連樹と
ひ木の枝を伐く。是を剪出。其糞汁を以て法服を染。樹の枝小掛り。日小乾
り。乾も亦深く日小乾。數日如斯く。稍戒行を怠り。茲小此廣脇山の林處
小牛成。鬻ふ布有る。小一日頭の黄牛如何し。鼻緒解く。山上遙小。登
る。れを牛至心慌て。其所よ。這所よ。尋登小一人の比丘僧。草萱折りけり。庵
小座し。居り。牛至喘々走り。看如何道人。今信路へ頭乃黄牛奔来り。な
り。何きの方へ逃往ひ。知む。教む。と向離婆多素り。牛の来り成んが

只ちをどと各牛主大に紛り。這路をて他に巡往ん路もあつるも。そ何
 方へ往くと四方を見廻さる途の樹上小黃牛乃皮と覺れた物を曝したる
 於て一点の疑心を生じ離婆多が盧の辺をえれむ。一箇の昔の血の如き汁を
 亦傍の鋼刀あり其側小白た骨の如た物を絆多捨散せり牛主是を益
 疑ひ諸ハ這僧我が牛を殺し皮を剥ぎ樹上曝し且其肉を喰ふとあ
 しく再三再四牛乃行方を推問し止む。離婆多其戒行の妨をなすと大い小
 怒り。你匹夫先刺し我が不知と各も猶志む。空く一大妻の戒行を妨る何
 更ごと厲声小叱れむ牛主其勢小怖口成指で山を下り。數多乃市人小向
 山中小我が牛を殺せし賊僧ありと告るも市人們前後の思慮も及む。出
 ぬ搦捉り國王小紛よと。衆人荷擔上り山上一地 עלי有無の論小も及む
 離婆多を捉り縛りおけ。曳下り國王の廳へ出さるも國王離婆多を廳前
 小曳居させ。你僧徒乃身と。何を牛を盗し刺し切害し其肉を喰るぞ

と糾問ある。離婆多百貧道阿羅漢の戒行を修し他を顧の直なり。然も敢
 て牛成んを増く牛を殺し肉を喫如た破戒無慚の事成なり。久や曾て跡形
 かり經言かり。願く大王明小察し貧道を罪を免し。と陳謝されも國王
 敢て許さず。你已小牛の皮を剥ぎ樹上晒し血を絞り骨を捨てる。證迹ある
 猶安結を吐く陳も各と。獄吏小命と。百杖鞭撃せ。嚴く獄中小囚を
 離婆多是より無失科小依り。牢獄小般多。更七年。心中小如來乃金言乃違
 たり。戒感し。身ハ控持小るれ。獄中小在るも一心を廣脇山小通ひ。阿羅漢の
 戒行を心ゆれど。或る小或阿國王牢獄の辺を通れ。離婆多獄中にて歎
 て曰。噫世も曾り我が因位の昔無実の科を以て人を困り罪業滅せと曰
 果く我量も牛主が經言小遭法衣を染る樹小乾しを牛乃皮とんれ
 木連樹の剪汁を牛血と。其煮滓を牛骨とせし。獄中小般多。更已七
 年。猶未だ罪障消滅の期至るも。と。独言するを國王使ひて哀憐を生し



前生の業ふよる

離れ多魚実の
可ま真るあ図

大徳寺繪巻

三十一



衣と深き離れ多
禍を贖と図

大徳寺繪巻 卷四

三十二

諸ハ渠実小牛を殺せし者ハあふりりりり。遂ハ宰成出シ桎梏を許シ法教
 袈裟等を賜フ。これハ離婆多大ノ悦ハ口ハを謝シ。戸羅大國を立其頃世
 其ハ鉢利奈國不在。法を統御。と史御跡を慕。其國。到。如來。拜。湯
 世。離婆多を見。以。你。已。過。去。の。罪。障。滅。た。り。你。が。前。生。ハ。瞿。瞿。國。の
 大臣。たり。が。人。の。愛。妻。有。し。小。或。河。倉。卒。小。眩。暈。の。疾。を。生。じ。て。絶。死。せ。し。人
 の。女。年。弛。著。く。抱。た。る。左。右。く。生。圓。り。たり。然。る。所。ハ。大臣。外。より。回。り。来。り。是
 を。見。女。年。と。愛。妻。と。奸。通。と。し。心得。女。年。を。縛。て。刑。人。と。す。る。刑。人。是。女
 年。ハ。無。実。乃。罪。を。憐。み。暗。小。助。命。ま。し。り。ぬ。大臣。是。を。怒。て。刑。人。を。獄。中。小。囚
 せ。し。七。年。其。後。大臣。三。室。小。依。し。慈。悲。心。を。生。じ。て。刑。人。乃。科。を。宥。し。獄。を。出
 し。放。し。ち。り。ぬ。大臣。ハ。即。ち。你。が。前。身。愛。妻。ハ。黃。牛。乃。前。身。女。年。ハ。牛。王。乃。前。身
 刑。人。之。戸。羅。大。國。王。乃。前。身。なり。と。統。御。し。か。へ。離。婆。多。深。く。慚。愧。し。益。世。の
 天。眼。通。を。修。む。と。戒。行。怠。し。と。遂。ハ。阿。羅。漢。の。果。を。得。り。たり。

難陀王即位并淨飯王崩御

且統伽毘羅城ハ淨飯王世の金言小因。難陀太子小讓位あり。今。博
 士。小。日。良。辰。を。擇。せ。緒。國。ハ。小。王。及。び。百。司。百。官。を。朝。廷。小。聚。讓。位。の。儀
 式。先。規。乃。如。く。嚴。重。小。備。七。寶。七。流。の。宮。臣。を。授。与。し。芽。出。度。即。位。の。式。も。こ
 ろ。小。國。乃。王。乃。月。卿。雲。客。難。陀。王。を。拜。賀。し。皆。萬。歳。を。唱。へ。る。是。ハ
 依。り。淨。飯。王。ハ。仙。洞。小。棲。り。住。せ。し。心。穩。小。風。月。を。詠。ひ。む。小。樂。極。つ。て
 悲。心。生。じ。と。る。乃。ハ。一。朝。後。深。乃。脚。不。例。小。臥。む。多。が。脚。悩。日。小。増。く。重。く。せ。し。以
 ち。れ。ハ。嬌。曇。彌。好。容。美。容。乃。三。夫。人。之。心。更。かり。滿。朝。り。諸。臣。大。小。皆。露。普
 く。四。天。下。小。名。醫。醫。を。需。り。召。寄。り。治。療。小。肺。肝。を。碎。く。せ。れ。と。露。む。り。の。功
 驗。を。も。奏。せ。ざ。れ。ハ。三。夫。人。難。陀。王。乃。脚。數。一。さ。な。と。晝。夜。病。床。小。侍。病。し。衣
 帶。及。解。し。六。寝。食。を。忘。く。と。り。あ。ら。む。小。群。臣。日。々。小。頼。む。女。兒。御。容。體。を
 又。も。く。心。を。痛。め。法。皇。乃。令。弟。小。其。露。飯。王。白。露。飯。王。解。飯。王。等。の。并。ハ

を練く曰盛衰不定の世の如く王者とて久しく現世に任じても
 一度無常乃刀風小遭呼吸の息断絶して山轉々たる形跡の中
 枯木乃如人々今此火乃熾なる足らざる致れ然るも六慾乃切火
 猶熾なり身を焦すと甚し故小萬變を抛く佛道小入水く生死
 乃苦界を離れと脱綸一丈程なり茶毘畢るに之を聖骨を拾ひ
 黄金乃函小収り文陽山なる六耶夫人の墳とて之を埋葬し其上小
 十三層の寶塔を建釋尊緒羅漢と俱小塔廟を供養し其
 正覺真正乃如来自已供養し又妻かれむ三世の緒佛菩薩垂も未降し
 妓花を降し音樂を奏して是を和樂此功力なり淨飯大王の靈
 兜率天小生か受む久妻疑なり上下隨喜乃洞を流し

釋迦如來御一代圖會卷四畢

洞心寺裡

高僧年